

花ノ木

第 115 号

令和 5 年 1 月 29 日

花ノ木医療
福祉センター

電話 0771-23-0701

FAX 0771-22-8348

H.P <https://kyoto-hananoki.jp/>

原点に返って

社会福祉法人の花ノ木の務め

社会福祉法人花ノ木

理事長 山内 一



新年を迎え、兎年の飛躍をするにあたっての思いをお伝えしたいと思います。昨年はコロナに終始した一年でありました。コロナが寅になったかのようにでありまし

た。とともに、社会福祉法人の経営する高齢者・障がい者・保育施設における虐待や不適切な介護など共生社会を目指した時代に逆行する恥ずべき行いがあり、社会に不信感を与えた事件が数多く起こってしまいました。

エッセンシャルワーカーとして社会から感謝される立場にありながらの行為・事件であったことから、メディアに大きく取り上げられ、批判を受けたことは記憶に新しいところです。加えて、経営する法人の対応にも問題がみられたところでした。

デフレからの脱却に明るさが見え始めた途端、コロナ禍からウイズコロナへとシフトする中、化石燃料の高騰、ウクライナ紛争の勃発、そして急激な円安と国民生活に多大な影響を及ぼす国際的な出来事が発生しています。私たち社会福祉に携わる者にとっても他人

ごとではない環境におかれています。

こうした中で大事なものは基本に戻る原点回帰なのではないかと思えます。兎の飛び跳ねる姿から飛躍の年と言われますが、飛躍する土台がしっかりしてこそ、その跳躍が素晴らしいものになるのです。土台を堅固なものにするには、基礎基本がしっかりしていなければなりません。

昨今基礎学力や基礎学問の軽視が指摘されますが、この指摘こそが原点回帰なのです。昔の研究が地球温暖化の切り札として注目されるのも、国内だけでなく国際的な文化人類学も国際紛争の切り札として注目されるのも基本に忠実な視点からであります。宇宙科学が希望をもって進められ地球誕生の歴史を紐解くのも今の我々の生活における問題解決の糸口を紐解くために進められるものです。

社会福祉の原点とは、人の豊かさだと思います。福祉・医療を学ぶ動機が何であれ、その目的は人の豊かさの追求だったはずで、社会福祉がビジネス化していると認識される傾向が日増しに強くなっています。その現場で活躍

するエッセンシャルワーカーのモチベーションを支えるのはこの豊かさの追求なのです。施設であれ、在宅であれ、障がい児者の個々の豊かさを支えるのに協力することで誇りを持つのが喜びなので、これが社会福祉に従事する者の原点だと考えます。

当法人の中長期計画により施設の大規模リニューアルにより着手いたします。150人の入所児者のためだけではなく、人口減少下でプロとして活躍する当法人の職員が社会にそのプロフェッショナルな技量を還元していくための事業となります。社会福祉の充実という原点に立ち戻って職員の思いを形にしていける事業であります。今年には更に体制を充実して思いを形にできるよう本格的に動きたいと思っております。

これから数年かかりますが、未来を見据えたアイデアを盛り込み、社会から法人の存在意義を認められ、協力と支援をいただける素晴らしい跳躍のできる年にすることを誓って新年のあいさついたします。

クリスマス会特集



★ 第一病棟

第1病棟では季節の行事として、クリスマス会を12月22日(木)の午後に開催しました。今年度も感染症対策としてサンタクロースとトナカイに扮した職員が各居室を順次回る形での実施となりました。

当日は1人と1匹(?)が進行情係となつてクリスマスの仕掛けがいっぱいのボーリングゲームをしました。



クリスマスツリーを型取ったレーンには、ピンが倒れるとあらかじめレーンに貼り付けられているサンタやトナカイ、雪ダルマ等がツリー

の飾りとなり、最後にクリスマスツリーが完成する仕掛けです。ピンが倒れ、ツリーが出来上がっていく度に、クリスマスの雰囲気

で盛り上がりました。利用者一人一人が思いのまま

★ 第二病棟

にピンを狙ってボールを投げたり、転がしたりしてゲームに熱中されておられました。ピンが倒れると、周りの大きな歓声で笑顔になり、ゲームを楽しんでいる姿も沢山見られました。

ゲーム終了後には、サンタがみんなの前でクリスマスプレゼントを紹介。どれも利用者の皆さんが楽しんで使える物なので、これから集団活動・個別活動に使用していきたいと思えます。

(生活支援員 豊田 剛)

12月19日、第2病棟でクリスマス会が開かれました。

最初にスイーツバイキングを楽しみました。ケーキ3種類(チーズ・シヨコラ・マロン)から選んでもらい、「これにする」や「おいしい」等の声が聞けて皆さんご満悦の様子でした。

昼からは、思い出スライドショーとシアター絵本をしました。

思い出スライドショーでは、

以前の外出活動や懐かしい写真

をクリスマスソングにのせて、その中には水族館や動物園の楽しい写真や、懐かしい職員の写真などがあり、笑顔で過ごされていました。

次に、「いろいろサンタのクリスマス」という絵本を読みました。



次に、「いろいろサンタのクリスマス」という絵本を読みました。

サンタがパンダやゾウさん等にプレゼントを届けた後、最後に第2病棟にプレゼントを届けにきてもらう内容にしました。読み終えた後、鈴の音とともにサンタとトナカイが登場し大盛り上がり。サンタからプレゼントと個人宛のクリスマスカードを貰い、笑顔が絶えないクリスマス会でした。

(生活支援員 山田直毅)

★ 第三病棟

12月18日(日)に第3病棟のクリスマス会が開催されました。今年

は病棟の外に少し足を伸ばして、多目的室のクリスマス週間会場

で小グループ毎に分かれて開催しました。用意されたフットブースを見て、皆さんツリーに手を伸ばしたり、赤や緑の

フットブースを見て、皆さんツリーに手を伸ばしたり、赤や緑の

風船や飾りを見つめてにこにこしたり、クリスマスソングが流れる会場の雰囲気

を十分に楽しんでおられました。

今年

は利用者の皆さんがサンタさん!

という

ことで、真っ赤な帽子をそれぞれ被り、第3病棟に素敵なプレゼントを届けてくれました。

職員はトナカイの着ぐるみを着てお手伝い。真っ赤なソリならぬカートから出て来たのは、トムとジェリーのDVDボックス、カラフルなソフアーカバー、ドレミパイプやドラム、毎年、ぺちゃんこになるほど遊んでいるアンパンマンボール;そして目玉は何といつても、プロジェクト内蔵DVDプレイヤーと巨大スクリーン!ビデオシアターが大好きな皆さんにとつて、普段の活動がより楽しくなるのではないのでしょうか。

プレゼントだけではなく、クリスマスならではの賑やかな空



プレゼントだけではなく、クリスマスならではの賑やかな空

気が楽しいのか、普段は物静かな利用者の方も思わず顔を上げてにっこり。その笑顔を見ると、今年も頑張った良かったなあと思うトナカイでした。

(生活支援員 飯田真菜)

★ 第五病棟

第5病棟で12月14日にクリスマス会を行いました。

集まって楽しむ事は難しいので、小人数で楽しい雰囲気味わえる様に工夫しました。

2〜3人ずつ順番に多目的室のクリスマスコーナーに行き、そこで待っているサンタからツリーの飾り付けを受け取りました。サンタを見て



びっくりしている利用者さんもおられました。受け取った飾りを病棟のクリスマスツリーにつけて完成させると、喜んで記念撮影を撮り、シヤンパンで乾杯を行いました。飾りしっっかり手渡しし、一緒に付けると

きにそれぞれの表情の変化を見ることもできました。

サンタが病棟内を回ることや歌を歌うなどは出来ませんでした。キラキラした飾りを見るなどして、一人ひとりじっくり関わる事が出来ました。当日体調不良の方も後日写真を撮ったり、クリスマスコーナーに散歩に行くことができるなど、ゆったりとした時間を過ごすことができたクリスマスになりました。

(生活支援員 大西智史)

★ はなのき通所

12月15日(木)に通所係クリスマス会を通園棟内で開催しました。

各利用者さんと職員で持ち寄ったプレゼント交換、聖歌隊のように着飾った職員達によるクリスマスソングの演奏、マライアキヤリーのあの名曲に乗せて、サンタやトナカイに扮装した職員の



ダンスなど、盛りだくさんのイベントとなりました。

あつという間の1時間、素敵な演奏に聴き入っていた利用者さんや、職員の方、もらったプレゼントを見て笑う方、もらったプレゼントが気になつてドキドキされる方など、様々な表情で反応を見せてくださいました。翌日に、プレゼントで貰ったレグウォーマーをつけて来られた方もおられ、見て・聴いて・貰って・楽しむことが狙いだったクリスマス会を、利用者さんと職員一体で作ることができたのではないかと思います。

また今年も素敵なクリスマス会が開催されることを願っています。

(生活支援員 山本克也)

★ 児童発達支援センター

児童発達支援センター「おひさま」では、12月後半は各クラスでクリスマスイベントを行っています。手形を取ってトナカイさんの角にした

り、シールを貼ってツリーの飾り付けをしたり、ツリーのパーツを一人一人で作り、みんなで大きなツリーにしたりと制作に取り組み、パネルシアターやゲーム、おやつやプレゼントなど、お楽しみがたくさんありました。直接サンタさんからプレゼント

トをももらったクラス、恥ずかしがり屋でサンタさんの姿は見えなかつたけど、活動からお部屋に帰ってきたら、プレゼントが置いてあったよ！というクラスもありました。



年長さんのグループでは、椅子取りゲームの「フールツバスケット」を、クリスマスバージョンに変更！

「サンタ」「トナカイ」「クリスマスツリー」など、クリスマスにまつわる言葉をフルーツの代わりにした「クリスマスバスケット」を、職員と子どもたちが一緒になって楽しみました。

「ココはなのき」の子どもたちも冬休みに入り、年明けには、クリスマスやお正月の楽しかったことをたくさん聞かせてくれることと思います。保護者の方々と共に、子どもたちの成長を喜びあつていきたいです。(こども療育係 心理判定員 高橋良子)

掲示板



情報発信事業

地域学習会

「発達障害がある方の

就労にむけて」

～自分に合った働き方や、働くために必要な力を知る～

11月12日に情報発信事業 第29回地域学習会を開催し、『発達障害がある方の就労にむけて』をテーマに外部講師お二人に講演していただきました。Zoomを使ったオンラインのみでの開催でしたが、33名の方にご参加いただきました。ありがとうございました。

自己理解とは、「自分の得意や苦手について、それを人との関係の中で気付いたり認めたりして自分のものにし理解していくこと」であり、学校の進路選択や就労を考えるにあたって「自分が何者であるか自分が分かっていること」が大切だというお話でした。

研修には当事者本人、家族、福祉事業所職員、学校の先生にもご参加いただき、日々の生活の中で考えながら、支援のきっかけになる内容であったと思います。

オンラインでの開催は、会場確保、資料準備などの手間が少なく運営しやすい点は良かったと思います。が、申し込み時にZoomの操作に不安があるとの連絡をいただくこともありました。また、オンラインでは表情や雰囲気を読みにくくなってしまい、参加された方も質問などコミュニケーションの難しさを感じられ

たかもしれません。

一方で、対面だと、相手の表情や雰囲気も掴みやすく、より学びやすくなると思いますし、花ノ木が地域に情報発信できる機会でもあり、次回開催時は感染対策をとりながら、対面でも実施できる方法を考えていきたいと思っています。

(相談係 生活支援員 青山 壘)

花ノ木の動き

(令和四年十一月一日～令和四年十二月三十一日)

- 11/2 所内研修「虐待防止と身体拘束廃止」
- 10 所内研修「感染対策」
- 10 看護実習 明治国際医療大学(24・25)
- 11 理事会
- 12 情報発信事業「第29回地域学習会」
- 14 停電時対応訓練
- 14 情報発信事業
- 16 「第2回在宅向け はなのき料理講習会」
- 28 看護実習 京都府医師会看護専門学校
- 29 評議員会
- 2 医管棟・通園棟・児発支センター防災訓練
- 7 所内研修「健康講座(協会けんぽ)」
- 8 看護実習 明治国際医療大学(9)
- 10 内定者研修
- 11 クリスマス週間(～25)
- 15 所内研修「防犯(亀岡警察署員)」
- 28 仕事納め

ありがとうございました

寄付・寄贈 (敬称略)

◎寄贈

塩野忠雄(マスク)



編集後記

新年明けましておめでとうございます。年末年始はいかがお過ごしでしたか。私は、おせちに：お餅に：カニに：お肉に：と毎年変わらず食べてばかりのお正月を過ごしました。

初詣に行くことと厄年の表があり、そういえば去年は大厄だったことを思い出し、特に大きな病気もなく良かったなあとしみじみ思いました。

通所係で早くから制作活動で干支の風作りをしているせいか、母も祖母も卯年だからか、2023年は卯年だと早くから意識していました。いつもだどぎりぎりに年賀状を作成しながら「来年の干支は何やったかな」とのんきに言っているところです。今年の干支は卯。

ウサギはおとなしく、穏やかなイメージがあります。このことから安全の象徴としての意味を持っています。さらにその跳躍力から飛躍、向上という意味も持ち合わせています。2023年、家内安全、飛躍の年になるように積極的に行動していきたいです。

(編集委員 藤本愛香)